

# 帰国後の進路について、考えていますか？ 帰国子女の中学受験事情 SAPIA 海外子女教育研究所



切つて以来「海外という環境の中で、親が子供たちをどのように育てたいか」ということを実現するための場所として多くの日本人生徒の学習指導にあたって来た。「本校は、色々とところで「塾」として分類されていますが、実は私はこの塾という言葉を使いたくありません。それは、日本の塾というイメージの枠を超えて海外生をもっとトータルに育てたいという気持ちがあったからです」と校長の東郷昭彦氏が語るとおり、同校は海外という素晴らしい環境の中で思いっきり自分を伸ばしながら、日本の子供達に負



イリノイ州シャンパーグにあるSAPIA海外子女教育研究所では、日本人の小・高校生を対象に学習指導を行っている。同校は88年にOMECとして創立、2003年にSAPIAとして新しいスタートを

## 加熱する日本の中学受験 帰国子女の親が、知っておくべき事

SAPIA 海外子女  
教育研究所校長  
東郷昭彦氏インタビュー



今年度から「日能研リーグの受験クラス」がSAPIAに加わりました。前述の話と矛盾すると思われる方もあるかもしれませんが、日本という国にとつて「中学受験」ということが避けて通れない時代になったということがあります。シカゴは他の大都市に比べて「のんびりしている」というのがよく言われます。これは確かにシカゴのよい点なのですが、しかし親として「今の日本がどうなっているのか」をよく知っておく必要があります。首都圏では、中学受験率が20%を超え（日能研のデータ）、東京23区や神奈川県ではクラスの半分以上が受験するという学校も出てきています。子供を育てる立場としてこのような事実

同等かそれ以上の時間をかけて準備をしている。そんな授業だから面白いはずだし、熱意が生徒に伝わる。それを受けて生徒達も互いに刺激しあつて力一杯努力し、素晴らしい合格実績を積み重ねてきた。「毎月のテストの度に生徒たちはスपोर्टの試合に臨むような気持ちで『自分のベスト』を出そうとしています」。SAPIAの合格実績は押し付けの勉強で出した実績ではなく、生徒が自分達の気持ちで築き上げた素晴らしい結果なのだ。

は事実として見据えることが大切だと思います。子供を取り巻く状況がずいぶんこれほどと変わってきているといえます。今のような時代は過去にありませんでした。ですから、親が「自分は中学受験をしなければならぬ」という理由だけ小学生の子供をただのんびりと過ごさせてしまうのは、危険を伴います。日本の受験や受験勉強の実態をしつかりと把握した上で、子供の性格などを考え、あえて受験をさせないのならそれはそれで意味のあることだと思えます。ですが、私自身も受験をするかどうかはいろいろな価値判断があるとして、受験勉強を意図した勉強が必要ない時代になったと考えたいです。教科書と受験用のテキストではレベル的にも内容的



にも同じ科目と言えないほどの差があります。今のよみに生徒の7割が塾に通うという現実の中では、学校の教科書だけで勉強してきた生徒と受験用のテキストで勉強してきた生徒では中学生になった時かなりの差ができてしまつていて、後から始めた生徒は劣等感を抱きかねない、そういう時代になっています。SAPIAでは受験自体は肯定も否定もしません(SAPIAでは受験クラスと一般クラスを選択できるように



なっています)が、もし生徒達が「自分に挑戦するために受験する」という気持ちで受験するならば、素晴らしい勉強の機会になると考えて、受験をどのようにとらえたらよいかということから生徒に語りかけています。その結果として、もちろん受験クラスでもほぼ全員が自分の意志で頑張つて努力しています。この、「自分の意志で」というところが大切です。まず、この両親が日本の受験を含めた教育の現状をしつかりととらえてください。特に昨今では経済悪化の影響で、予想外の急な帰国が増えています。このことは子供には分かりませんが、日本がいつ帰国しても日本で立派にやっつけていけるしつかりとした学力を身につけてあげることがこの両親の責任です。今月30日に開かれる帰国子女説明会は絶好の機会だと思えます。是非ご家族で足を運んでください。そして日本の受験生の実態を知り、今後どのように学習を進めていくかご家庭の中で語り合う機会として頂くとういのではないのでしょうか。